

編集後記

◇ 本号No.143の特集では、農研機構北海道農業研究センターが研究総括・管理運営を行って、平成26年度から5年間にわたり実施された「バレイショ・イノベーション創出強化研究推進事業」に参加した北海道農業研究センター、北見農業試験場、長崎県農林技術開発センター及び品質評価を行ったばれいしょ加工適性研究会等の方々に各々担当部分を寄稿頂いた。このプロジェクトの成果として「パールスターチ」、「さらゆき」、「ながさき黄金」などの優良品種が育成されてきているので、その詳細を是非ご一読頂きたい。

◇ サツマイモの主に東南アジア向け輸出増加にますます拍車がかかっている状況にある。先般公表された「財務省貿易統計」の速報によれば、2019暦年のサツマイモの輸出額（FOB）は16.9億円となり、前年の13.8億円から約3億円の増加となった。輸出量については昨年（暦年）で4,350トンとなっており、その仕向先は、多い順に香港（8.3億円）、シンガポール（4.6億円）、タイ（2.4億円）、台湾（0.9億円）などとなっている。その中で伸びが大きいのはタイで対前年比68%の増となっている。またシンガポールも好調で対前年比31%の増加であった。一方、数量は少ないが、新興輸入国のカナダに40トンの輸出があったのが目立っている。

しかしながら、輸出増加に喜んでばかりはおられず、日本の品種登録品種も生芋で輸出されていることから、日本の優良品種が現地で無断増殖されないよう、育成者権の保護に充分留意する必要がある。

◇ 日本農業新聞によれば、「2020年農畜産物トレンド調査」（スーパーや生協、専門小売店、外食、卸売業者などの販売担当者によるアンケート調査で169社が回答）が掲載されたが、これによれば、流通業者が今年注目する野菜品種で上位10位までにランクインしたのは、サツマイモでは「べにはるか」が2位（回答社5）、「シルクスweet」が3位（回答社2）となっており、サツマイモの人气が依然高いことが解る。特に、「べにはるか」は昨年は評価が下がったが、今年はサツマイモ部門で1位に復活しており人気の底堅さを示している。

一方、ジャガイモでは「今金男しゃく」、「ながさき黄金」が取り上げられている。「今金男しゃく」については、本号No.143の産地情報で取り上げているのでご一読頂きたい。

（鈴木 昭二）

いも類振興情報 第143号

2020（令和2）年4月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料（季刊） 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社